

会員のひろば

大雨での帰省

石井 幸江

2023年7月22日に義母の法事があるため、7月20日の夜中に出発。前週からの大雨で五城目町は、町全域で断水が続いていると聞いていたので覚悟して。主人の実家は、浸水被害も無く断水だけでしたが、町の中では床上浸水で家財や布団が玄関前に出されている光景を目にして、大変なことが起きていたと思いました。夕方主人と義弟は、トイレを流す水を汲みに20リットルポリタンク5個を持って出掛けていきました。飲料水は支援物資のペットボトル、その他の生活用水は毎朝給水所へ20リットルポリタンクで貰いにいきました。困ったのは入浴と洗濯です。幸いなことに翌日には近隣の町の施設が、被害を受けた方を対象に無料で受け入れてくれたので、八郎瀨町のオリンピック記念館でシャワーを借りる事ができました。その後洗濯の為にコインランドリーへ向かうも最初の店舗は駐車場が満車。こちらと違い店も小さく数も少ないので、30キロ程離れた場所の別店舗へ。約30分待ちで洗濯出来ました。待っている間に話を聞くと、来ている客は五城目の人ばかりで皆さん洗濯難民のようでした。



こんな状況の中でしたが、義母の法事を無事に済ませる事が出来ました。義母の思い出を語る上で尚記憶に残る1日となりました。23日には水は出るようになり、シャワーや洗濯は出来るようになりましたが、飲料には水質検査の合格が出なければ使えないとの事。使えるようになったのは、私たちがこちらに帰って来てからだそうです。

いつでも安心、安全な水があるのが当たり前のような生活が、1週間大変な思いをして大切に使わなければいけないと実感しました。自然災害の恐ろしさ。防災用品の準備、確認を今一度。



アシナガバチさん  
「めんなさい」

小野 勝雄



「痛い……！」右腕に激痛が走った。起床後いつものように庭に出て雨戸を開けて戻ろうとしたところ右腕に何か刺さったような鋭い痛みが走ったのだ。この辺にはバラの花は植えてなかったのに、トゲが刺さるはずはないのだが……と思った瞬間、一匹のハチが私の胸元から飛び立った。「やられた、刺された！」アシナガバチと思われるものが私を攻撃したのだ。スズメバチでなくて良かったと思いつつ虫刺され薬を塗ったが半日ほど痛みが引かなかった。



翌朝も同じように雨戸を開けながらふと上を見ると、なんと目の前30センチぐらいの近いところにハチの巣があるではないか。そこにハチの巣があることは知らなかったし特にハチに対して悪さをしたことは無かったので、巣の近くを通ってもハチはこれまで私を攻撃してこなかっただけなのだ。

このまま放っておくと家族が刺されかねないと思つてその夜電気は消して雨戸を閉め、網戸を静かに開けて1メートルぐらいの板を夢中で巣に向けて何度も擦り付けた。巣が落ちた感触があった。しかし今網戸を開けて覗こうものならハチの猛攻にあうだろうと思ひ、確認は翌朝することにした。今年の夏は猛暑が激しいから暑さに強いハチ達の活動はすごいのに違いない。

翌朝こっそり覗くと巣は下に転がっていたが、ハチはそこに居なかつた。なんと元巣があった場所に70〜80匹のハチがびっしり留まってなにか相談しているように見えた。以前小さな巣を落とす時にハチはすぐあきらめていなくなつたが、このグループは復興しようとしているのか、まるでリフォームの相談でもしているかのように見えた。私も雨戸や網戸のガタピシを何度も修繕したことがあるので、この時ハチの巣を落とした自分の行為を責める気持ちがわいてきた。

さらに翌日も元の場所から離れようとしないので、夜になるのを待つてまた板で巣の残骸を落とそうと試みた。結構ネバリが強い残骸の巣で翌朝もハチ達はその場所を飛び立っていなかった。よほどここが気に入った場所だったのだろう。

夜、お酒を飲みながら自分も今住んでいる家を25年ローンで返済はしたが大変だったなと感慨にふけた。読者の県人会の皆さんもマイホームの返済を続けてこられた方が多いと思いますが、自分も働きバチだったなと思うと、あのハチ達の頑張りも重なる、また巣を壊して済まなかつたなと思うのです。

しかしハチさんごめんなさい、皆が立ち去るまでと、また今晚も私は板を持つて夜更けを待つのでした。

「編集後記」

今年の夏は地球温暖化を顕著に感じた夏でした。海老名は雨不足で折角の家庭菜園もカラカラに干上がり、植栽者としては被害が大きかったです。幸いスイカとミニトマトは甘いのが収穫出来てほっとしました。(小野)

子ども達の夏休みはよく伯母の家で過ごしていました。庭でとれるトマト胡瓜トウモロコシなど食べ放題！「キミ」と呼んでいた薄皮が固くまっ黄色な実のトウモロコシを思い出します。(川村)

